

海洋鉱物資源開発に向けた資源量評価・生産技術等調査事業委託費

平成30年度予算額 87.0億円（108.0億円）

事業の内容

事業目的・概要

- 我が国周辺海域には、海底熱水鉱床、コバルトリッチクラスト、マンガン団塊、レアアース泥といった海洋鉱物資源が存在し、これらには省エネ機器等に不可欠な銅やレアメタルが含まれています。国内資源の乏しい我が国は、鉱物資源の安定供給確保のため、資源量評価や生産技術の開発に向けた基礎的な研究・調査等を行い、これら海洋鉱物資源の開発を推進します。
- 具体的には、海底熱水鉱床は、平成29年度の世界初の採鉱・揚鉱試験を踏まえて平成30年度は経済性評価や、資源量評価を行います。
- また、他の海洋鉱物資源のうち公海上に有する探査鉱区では、国際海底機構との契約に基づいて資源量調査等を実施します。さらに、海洋鉱物資源の生産技術の基礎調査を進めます。

成果目標

- 平成23年度から平成30年度までの8年間の事業成果を用いて、我が国周辺海域において、平成30年度までに世界に先駆けて海洋鉱物資源開発の要素技術の確立を目指します。なお、平成31年度以降の事業計画は、次期海洋基本計画の策定（平成30年度に内閣府 総合海洋政策推進事務局とりまとめ）に合わせ改めて整理予定です。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

<海洋鉱物資源>

海底熱水鉱床



コバルトリッチクラスト



マンガン団塊



レアアース泥



<資源量評価>

- 海洋資源調査船を使用し、資源量評価等を行う。



使用船：
海洋資源調査船
（調査に必要な推進機能や複数の機器を搭載）



調査手法：
ROV(遠隔操作無人探査機)による海底観察、試料採取等

<生産技術>

- 海洋鉱物資源について、生産技術の基礎調査を行う。

